

受託候補者審査基準

1 審査者

提出資料及び見積書について、次の者が審査する。

- 文化市民局共生社会推進室 室長
- 文化市民局文化市民部 文化市民総務課長
- 文化市民局共生社会推進室 人権文化推進課長
- 啓発・事業調整課長
- 啓発係長

計 5 名

2 評価・選定方法

(1) 評価項目①

各項目の配点は 3 (1) の通り。

(2) 評価項目②

見積金額については、3 (2) に記載のとおり評価点を配分する。

なお、参加者が 1 者の場合は、評価項目②は評価対象から除外する。

(3) 最低制限

次の評価点合計を最低制限とし、最低制限の評価点合計を上回らなければ選定されない。

評価項目① 500 点満点 (100 点 × 5 名) 及び	330 点
評価項目② 50 点満点の合計 550 点の 6 割	

なお、参加者が 1 者の場合は、評価項目① (500 点満点) の 6 割の 300 点を最低制限とする。

(4) 選定

ア 評価項目①に対する審査者の評価点合計に、評価項目②により算出した評価点を加えた合計点により順位を決定し、第 1 順位となつた応募者を受託候補者として選定する。

イ 第 1 位順位の者が 2 者以上あるときは、評価項目①「企画」の評価ポイントの評価点がより高い者を選定する。なお同点であれば、評価項目①「構成」の評価点がより高い者を選定し、なお同点となる場合は、審査者による協議において選定する。

3 審査基準

(1) 評価項目①

項目	評価のポイント	配点 (1名)	評価点 (1名)	評価
企画	本誌の趣旨（実施要項1(2)※目的）を理解し、本市が指定したテーマの人権問題の啓発に関して適切な著名人や企業等を挙げているか。	1 5	1 5	優秀である。
			9	平均的である。
			3	劣っている。
	取材候補とする著名人や企業について、掲載に係る実現可能性を考慮したうえで提案をしているか。	5	5	優秀である。
			3	平均的である。
			1	劣っている。
	人権問題に興味・関心の低い方、若年層（特に20歳代及び30歳代）が興味を持つと思われる内容であるか。	1 5	1 5	優秀である。
			9	平均的である。
			3	劣っている。
	より分かりやすく、魅力的な広報紙作成のため、過去の紙面を分析したうえで課題を提起し、適切な改善策が提案できているか。	1 0	1 0	優秀である。
			6	平均的である。
			2	劣っている。
	SNSの活用、プレゼント企画等、配布や読者の感想の集約強化のための具体的かつ効果的な企画を提案しているか。	5	5	優秀である。
			3	平均的である。
			1	劣っている。
構成	誌面が、人々の目に留まる工夫のあるレイアウト（特に表紙）になっているか。	1 0	1 0	優秀である。
			6	平均的である。
			2	劣っている。
	幅広い世代に内容が伝わるよう、分かりやすい文章作成及び紙面構成ができるか（提出書類一式により判断する）。	1 0	1 0	優秀である。
			6	平均的である。
			2	劣っている。
	ユニバーサルデザインの視点を踏まえ、配色やレイアウト等について配慮されているか。	1 0	1 0	優秀である。
			6	平均的である。
			2	劣っている。
事業者	・本委託業務を迅速かつ的確に遂行するために必要な実施体制及びスケジュールが確保されているか。 ・これまでに類似又は関連する業務を実施した実績があるか。	1 5	1 5	優秀である。
			9	平均的である。
			3	劣っている。
	提案事業者内で人権尊重（SDGsを含む。）に関する取組が十分に行われているか。	5	5	優秀である。
			3	平均的である。
			1	劣っている。
合 計		1 0 0		

(2) 評価項目②

項目	評価のポイント	配点
きょうとSDGs ネットワーク	本市の実施する「これからのおよそ100年を紡ぐ企業認定」に応募しているか、又は応募する予定か。 (認定済5点、応募・認定に向けて継続実施3点、なし0点)	5
京都市公契約基本 条例との関係	本市区域内に本店又は主たる事務所を有する中小企業者(※)かどうか。	5
見積金額	40点×(提案価格のうち最低価格/自社の提案価格) ※ 小数点以下第1位を四捨五入する。 ※ 予定価格を上回る場合は失格とする。	40
合 計		50

※ 中小企業者とは、中小企業基本法第2条第1項各号のいずれかに該当するものをいう。